

## 町地域おこし協力隊 3人の農業支援員に委嘱状を交付

厚真町地域おこし協力隊の農業支援員3人に4月1日、宮坂町長から委嘱状が交付されました。3人は、農業の側面から「町に貢献したい」と意欲を燃やしました。

委嘱状を受けたのは、札幌市出身の郷野晃慈さん(37歳)、大阪府出身の石井淳司さん(44歳)、横浜市出身の山中輝夫さん(40歳)の3人。郷野さんは、札幌市の農業法人から、石井さんは美容師から、山中さんは外資系不動産投資会社からそれぞれ転職。3人は「豊かな自然環境の中で農業を学びたい」と地域おこし協力隊に応募しました。

独身の郷野さんは「がむしゃらにハウレンソウの栽培を学び、珍しい野菜の栽培に取り組みたい」、家族4人で移住した石井さんは「函館で友人とクラブビールの会社を起業していて、ホップを栽培して厚真町の特産品にしたい」、3人家族の山中さんは「ハウレンソウの栽培でしっかり基礎を作り、ハスカップのように、国際的に発信できる作物を作り

たい」と、それぞれ抱負を語りました。宮坂町長は「農業の新たな可能性を見出して欲しい。しっかりサポートします」と3人を激励しました。支援員は、1年更新で最長3年間、農業担い手研修農場や研修受け入れ農家で技量を磨きます。



宮坂町長から委嘱状を交付された郷野さん、石井さん、山中さん(左から)

## 4月1日オープン 上厚真中央公園が完成

上厚真地区の宮の森こども園に隣接して造成していた上厚真中央公園が4月1日にオープンしました。パークゴルフ場や少年野球場などを備えた公園で、ピクニック気分が味わえます。

公園には、水遊びができる噴水広場と、ツリーハウスを連想させる遊具が目を引くアスレチック広場を整備しました。また、丘陵地に映える「すべり台の丘」や健康増進にひと役買いそうな散策路や芝生広場、休憩所も設けました。このほか、車いすで利用可能な水洗トイレやメロディーチャイム時計塔、駐車場も完備しています。



アスレチック広場と「すべり台の丘」

## 胆振農業事務所を設置 事業執行体制を充実・強化

北海道開発局は4月1日、安平町早来栄町にある「胆振東部農業開発事務所」に代わって「胆振農業事務所」(小野尚二所長)を設置しました。胆振東部地震の復旧・復興に全力で取り組むとともに、胆振地域の農業振興に向けて、農業生産基盤の整備をより一層推進するために、体制を強化したものです。

同事務所は、勇払東部地区などの国営かんがい排水事業や直轄災害復旧事業を行います。小野所長は「災害復旧をはじめ、農業基盤整備を通じて地域振興に尽力したい」と抱負を語りました。

自らが揮ごうした看板を掲げる小野所長



## 厚真建設協会と(株)丸博野沢組が 道路清掃ボランティア

厚真建設協会(鈴木英毅会長)と株式会社丸博野沢組(野澤政博代表取締役)は4月上旬、市街地や河川敷などで清掃ボランティアを行いました。

ボランティア活動は、児童や生徒たちに気持ちよく登校してもらおうと、毎年、入学式の直前に実施しています。

厚真建設協会の清掃活動は2日に行われ、加盟16社の28人が参加。小雨が降るあいにくの天気の中、会員たちは延べ約6kmの沿道でゴミを拾い、路肩にたまった泥や枯れ葉をほうきなどで取り除きました。鈴木会長は「健康に気を付けて、元気に登校してほしい」と話しました。

野沢組は1日、社員15人が厚真大橋～厚真新橋の間でゴミ拾いを行いました。社員たちは、姿勢を低くして草陰に隠れたゴミを見つけ、ビニール袋で回収しました。



送風機を使って道路を清掃する建設協会の会員



ゴミを拾って河川敷をきれいにする野沢組の社員たち

町では、災害情報や町からのお知らせが放送される「防災行政無線」を無償貸与しています。



「もしものとき」は明日かもしれない | 問い合わせ 総務課 情報防災グループ ☎ 27-2481

# 防災のページ

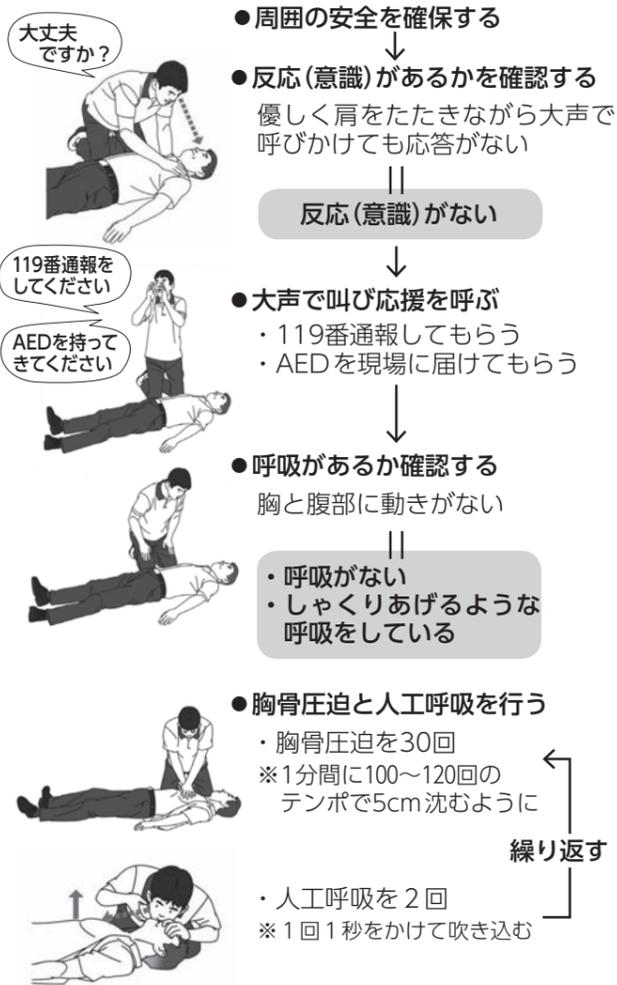
覚えておきたい応急手当

突然の災害では、けが人が出ても救急車がすぐに駆けつけられるとは限りません。そんなときに重要なのが、事前の知識と備えです。万が一のときにすぐに対処できるように、消防署が実施する救命講習に参加するなど応急手当の方法を覚えておきましょう。

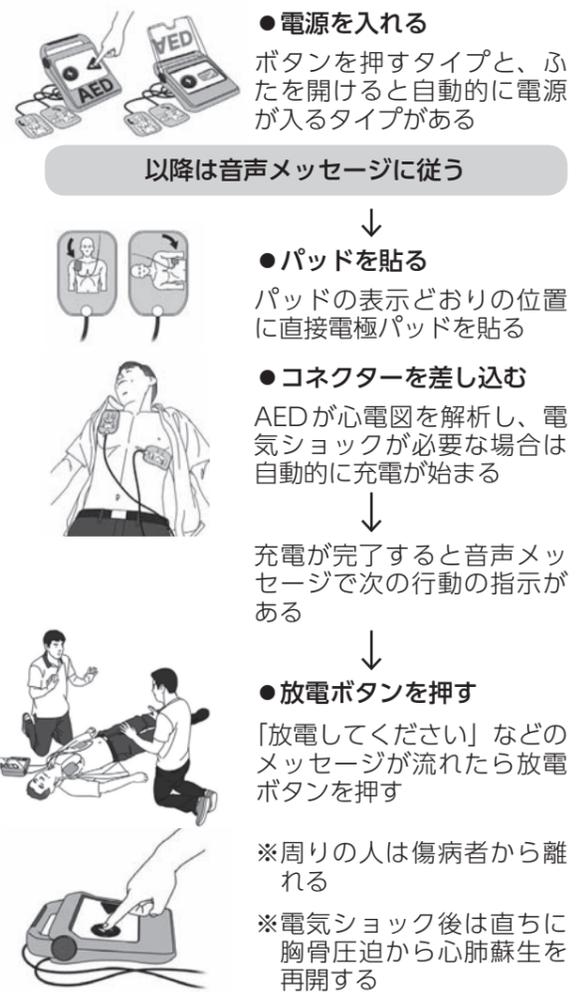
**出血** 出血部分にガーゼやタオルを当て、その上から手で圧迫し、傷口を心臓よりも高い位置にして医療機関へ  
※感染を防ぐため、ビニール手袋やビニール袋を使って直接血液に触れないようにする。

**骨折** 折れた部分に添え木を当てて固定して医療機関へ  
※適当な添え木がなければ、板、筒状にした雑誌、傘、段ボールなど身近なもので代用する。その上からテープで固定してもよい。

## 人が倒れていたら(心肺蘇生法)



## AEDの基本的な使い方



消防庁では、eラーニングで基礎知識が分かりやすくインターネットで学べる「一般市民向け応急手当WEB講習」があります。  
<https://www.fdma.go.jp/relocation/kyukyukikaku/oukyu/>



## 合同酒精(株)苦小牧工場が除菌用アルコールを寄付

焼酎などを製造する合同酒精株式会社苦小牧工場(苦小牧市)は4月9日、新型コロナウイルスの感染拡大防止に役立ててほしいと、町に除菌用アルコールを寄贈しました。

同社の阿部賢治工場長と総務グループの逢坂渉さんが、4リットル詰めボトル20本を提供しました。非売品として旭川工場で製造されたもので、濃度67%に希釈してあるためスプレーボトルなどに移し替えれば、すぐに利用できます。阿部工場長は「抗菌効果は十分。工場や支社がある地域への貢献です」と話すと、宮坂町長は「社会貢献として還元していただけるのは大変ありがたい。感染が拡大しないよう、十分注意したい」と感謝しました。除菌用アルコールは、町内の公共施設などで活用されます。



除菌用アルコールを寄贈する阿部工場長(左)と宮坂町長

## 新たな食肉文化の定着目指す「和牛メゾン事業」の賃貸契約調印式

厚真町は4月1日、町内高丘の大規模開発跡地(約203ヘクタール)で和牛の生産から消費までを一貫する和牛メゾン(施設)事業の実施主体、「GOOD GOOD合同会社」(大阪市)と22年間の土地賃貸契約を結びました。「食肉文化」を定着させ、地域の経済活力を育みます。



協定書を取り交わした宮坂町長(左)と野々宮代表

事業規模は8億円を見込み、和牛の繁殖や肥育を中心に自社店舗での消費のほか、海外への販売も想定。大規模開発跡地では、和牛事業に加えて宿泊や食事の提供、企業研修、乗馬事業などの展開も計画し、地元への雇用拡大も視野に入れています。今年から採草地放牧場の整備を行い、令和5年ごろから和牛の放牧を開始する予定で、令和7年ごろには200頭ほどに拡大することを目指しています。

調印式は、町総合福祉センターで行われました。宮坂町長は「北部山間地の窮状にスポットライトが当たる事業。期待しています」と語り、野々宮秀樹代表(41歳)は「地域の皆さまと新たな食文化をこの地で創っていききたい」と抱負を述べました。